

2022年5月9日

受益者の皆さまへ

楽天投信投資顧問株式会社

弊社ファンドの基準価額下落について

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年5月9日、以下の弊社ファンドの基準価額が前営業日比で5%以上、下落しましたのでご報告します。

(1) ファンドの基準価額と騰落率

ファンド名	基準価額 (円)	前営業日比 (円)	騰落率 (%)	(ご参考) 報告基準
楽天USリート・トリプルエンジン(リアル)毎月分配型	1,536	△165	△9.7	5%以上下落
楽天USリート・トリプルエンジン(豪ドル)毎月分配型	3,740	△323	△7.9	5%以上下落
楽天USリート・トリプルエンジン(トルコリラ)毎月分配型	1,491	△133	△8.2	5%以上下落
楽天USリート・トリプルエンジン・プラス(リアル)毎月分配型	2,652	△259	△8.9	5%以上下落

※ 弊社公募投資信託のうち、DC（確定拠出年金）専用、ETF（上場投資信託）は除きます。また、基準価額が前営業日比5%以上（投資信託協会分類の特殊型（ブル・ベア型）ファンドの場合は、別に定める水準）下落のファンドで、上記に記載のないものは別途作成します。

(2) 市況動向

4月29日から5月6日にかけての金融市場では、インフレ高進への警戒感や、予想される大幅利上げによる景気への影響を探り米国株式市場が乱高下するなか、米長期金利が2018年12月以来となる3.00%を超える水準まで上昇したことなどが嫌気され、米国リート市場が大きく下落しました。4日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）では、FRB（米連邦準備制度理事会）が市場予想通り50bpsの利上げとQT（量的引き締め）の6月開始を決定したものの、パウエル議長が会合後の記者会見において0.75%利上げに否定的な見方を示すなど、懸念されていたほどにはタカ派的な（金融引き締めに積極的な）内容ではなかったことから市場は一旦落ち着きを取り戻しました。しかし、その後は労働市場の逼迫を示唆する統計の発表が相次いだことを受けて、FRBによる金融引き締めペースの一段の加速が意識され、米国リート市場は再び軟化し、下げ幅を拡大する展開となりました。

なお、当該期間における各ファンドの基準価額下落の過半は、米国リート市場の下落に起因し、為替要因によるマイナス寄与は相対的に抑制されたものとなりました。米国における金融引き締め観測の強まりは米ドル高要因であるものの、米ドル円相場は4月に大きく円安が進んだ後でもあり、当該期間は小動きだったほか、ブラジル、豪州においては、それぞれにおいても利上げが実施されたこともあり、ブラジル・リアル、豪ドルに対する売り圧力が抑制されました。トルコリラについては、やや売りが優勢になったものの、下落幅が大きく拡大することはありませんでした。

(3) 今後の見通し

米国においては、インフレ見通しが不透明ななか、FRBは非常に難しいかじ取りを迫られており、市場ではFRBが一段の金融引締めを強いられ、米国景気が失速するリスクが警戒されています。株式市場はじめ、リスク資産が基調として回復に向かうためには、金融市場への影響力が最も大きい米国におけるインフレ率のピークアウトが確認されることが必要と思われませんが、インフレの主な要因となっているウクライナ情勢や中国のゼロコロナ政策によるサプライチェーン問題による不透明感は引き続き強く、当面の株式市場・為替相場は、これら要因や米国の物価変動の動向、そして、それに対応する金融政策姿勢を見ながらの神経質な展開となることが想定されます。

以 上

【重要な注意事項】

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資します（外貨建資産には為替変動リスクもあります）ので、基準価額は変動します。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。お申込みの際は投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

《投資者が直接的に負担する費用》

- 購入時手数料
上限 3.30%（税込）
- 信託財産留保額
上限 0.75%

《投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用》

- 運用管理費用（信託報酬）
上限 年率2.135%（税込）
※一部のファンドについては、運用成果に応じて成功報酬をいただく場合があります。
- その他の費用・手数料
上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等でご確認ください。
※その他の費用・手数料等については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率や上限額を表示することができません。
* 費用・手数料等の合計額は、保有期間や運用の状況などに応じて異なり、あらかじめ見積もることができません。

<ご注意>

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、楽天投信投資顧問が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

<当資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は楽天投信投資顧問が情報提供を目的に作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクを伴います。）に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。

楽天投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第1724号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会